

東北大木星観測所

遠刈田温泉の秋山沢には、東北大学木星観測所があった。観測所の周りは、何も無い山林だったから、雑音もなく観測にはよい環境だった。温泉が掘られ別荘地として開発、売りに出され徐々に別荘が建ち、観測所の周りは道路も整備され、小さな町並みになってしまった。

私が仙台で営業して居た頃、掛かり付けのお医者さんが、秋山沢の別荘地を購入し素敵な別荘を建て、電化製品一式買って貰って届けた事がある。遠刈田温泉がある蔵王町は、私達夫婦の生まれ故郷である。

平成元年に余生を生まれ故郷で過そうと思い、田舎で廃屋になつていた建物と土地を安く譲り受け、古屋を解体、屋敷を整備、八〇パーセント日曜大工で、仙台より通い仕上げ翌年転居した。蔵王に移り住んでから、二・三年後、東北大木星観測所が移転する事になった。別荘地の中では雑音が多く、観測環境が悪くなつたからだ。移転地はその北方、広大な牛の放牧場の西端、蔵王山の麓である。

新観測所の工事が始まつた頃、秋山沢旧観測所から、遠隔操作している巨大なアンテナ施設までの、ケーブルや多芯の電線、電柱の撤去を依頼された、請負である。

電柱は約七〇本、電線の長さは約二キロ、国有林、雑木林の急斜面を延々と建設されてあつた。細竹が生い茂り、人が入れない所もあつた。元請けの会社が普通の電工では、到底やりきれず、農家の頑丈な人でなければ出来ないと思つたようだ。

妻の生家は農家で、義弟は跡取りだ、何をやっても、要領よく能率的な仕事をする、手伝つて貰うことにした。本格的に仕事に掛かる前に、一人で山に入り、仮払い機で藪の中に作業用の通路を一日で作つて呉れた。私も電工さんを一人連れて行き、電柱が

ら電線を一日で外した。

電線は中間で切断、義弟は農用のトラクターで長い電線を、平地の川土手まで引つ張り、瞬く間にドラムに巻いてしまった。要領の良いのには驚かされた。

翌日は電柱の掘り起こしと運搬だ。義弟は義弟の長男を連れて来た。私は休日の次男と接待役の妻を連れて現場に集まった。元請け会社は電柱一本、一本手掘りで倒すと思っていた節がある。義弟はトラクターで、簡単に引き抜いて倒してしまふ。トラクターは強力で急な坂でも、藪の中でも動き回る。

別荘地を残し、午前中に全部倒してしまつた。午後から電柱を運搬用のトラックが入れる場所まで集めなければならぬ。義弟は電柱を五・六本纏めてトラクターで引き運搬、集め場所の手前のトラクターも入れない急な山の上を集めた。

此処からは次男が一人で、一本、一本約二十メートル下の平地まで下ろした。夕方まで義弟が頼んだ友人のトラックで、電柱を二回で運び終えた。その翌日義弟と二人で、別荘地内の電柱を、リースした大型コンボで倒し、電柱は大学で使用すると言うので渡し、残務整理して請負は完了した。

諸経費、人件費は充分な位支払つたが、私の利益が多すぎるので、義弟に御礼の気持で何がしのお金を出した。義弟は充分戴いたから要らないと言う、「では手伝つて戴いた三人で分けて下さい」と言つて渡した。次男も三人の一人で戴いたと言つていた。次男が来たときこの話をしたら、「一人であの山の下まで引き降ろしたが若くて力があつたのだな」感慨無量のようだった。

七日原牧場の西端から少し入つた蔵王山麓に、新しい東北大木星観測所が建つた。その後、妻や倅達と数回立ち寄つた。シーンと静まり返つた観測所には、休日の為か研究員は居なかつた。今も良い環境のもと観測や研究に励んで居るだろう。